

揖斐郡の学校保健 全体構想

| | |
|---|--|
| 研究主題 | ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成 ～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～ |
| <p><主題設定の理由> ポストコロナ時代は、人と人、人と空間、人と働き方など、様々な場面で暮らし方の質が大きく変容し、一人一人が健康に関する様々な情報を収集活用する必要が生じるとともに、健康教育が単に健康増進というだけでなく命や生き方に直結する時代である。揖斐郡学校保健会では、そうした時代にあって「児童生徒が、自らの健康に関心をもち、主体的に健康の維持・増進に努める健康教育」が重要で、「郡三師会と学校が連携した健康づくり」が必要であると考えた。 また、厚生労働省の『「統合医療」に係る 情報発信等推進事業』の中で取り上げられている「健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であるヘルスリテラシー」に関わって、新学習指導要領では、「現在だけでなく生涯を通じて、自他の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて思考・判断・表現し、心身の健康の保持増進や明るく豊かな生活に主体的に取り組む児童を育成する」という重要性について述べられている。揖斐郡学校保健会でも児童生徒が主体的な健康づくりを行うと共に、身の周りの人々の健康にも意識をもったり働きかけ、健康で生活できる未来を手にするためには「必要な情報を収集する力」、「情報を理解する力」、「情報を活用しようとする意欲」、「情報を活用する力」、「情報を発信する力」の「ヘルスリテラシーに関わる5つの力」の育成がポストコロナ時代を生き抜くために重要であると考え、本主題を設定した。</p> | |
| 揖斐郡学校保健会が考える育てたいポストコロナを生き抜く力をもった児童生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自らの健康に関心をもち、自ら健康の維持増進に努めようとする意欲や態度をもって主体的な健康づくりを行うことで、健康な生活を送ることができる児童生徒 ● 学校や家庭など集団としての健康づくりにおいて、身の周りの人々に対しても健康の維持増進に向け、働きかけができる児童生徒 |

| | |
|-------------|---|
| 研究仮説 | 郡三師会と学校が連携して「5つの力」を育てる健康づくりを推進すれば、ポストコロナ時代を生き抜くことのできる児童生徒が育つ。 |
|-------------|---|

| ポストコロナを生き抜くための5つの力 | | |
|--------------------|---------------|-------------------------------------|
| 1 | 必要な情報を収集する力 | 情報の真偽を正しく判断し、必要な情報を収集することができる |
| 2 | 情報を理解する力 | 収集した情報や学んだことを、適切に解釈し、理解することができる |
| 3 | 情報を活用しようとする意欲 | 収集した情報を自他のために効果的に活用しようとするすることができる |
| 4 | 情報を活用する力 | 収集した情報を効果的に活用し、自分の命や健康を進んで守ることができる |
| 5 | 情報を発信する力 | 収集した情報を身近な人々に発信し、健康の保持増進に寄与することができる |

| 研究部会Ⅰ 揖斐郡保健主事部会 | 研究部会Ⅱ 揖斐郡養護教諭部会 | 研究部会Ⅲ 揖斐郡学校保健会 |
|--|--|---|
| 研究主題 | | |
| 自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒の育成 ～保健主事のマネジメントの在り方と、三師会との連携による健康教育の推進～ | 「生涯にわたり主体的に健康な生活をつくりだす子の育成」 ～高い危機管理意識をもち、養護教諭の専門性を生かした保健活動の在り方～ | 郡が一体となって「ポストコロナを生き抜く5つの力」を育てる学校保健活動の推進 ～郡学校保健会による郡全体の健康づくりの充実を図るマネジメントや支援を通して～ |
| 研究仮説 | | |
| 保健主事の役割を明確にして実践を進めるとともに、三師会との積極的な連携を図ることで、学校における効果的な保健指導の在り方や道筋を明らかにすることができる。それらを、本研究やこれからの保健指導に生かすことで、主体的に自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒を育成することができる。 | 養護教諭が専門性を生かし、高い危機管理意識をもって組織的に保健活動を推進すれば、主体的に自らの健康づくりを行いながら、身の周りの人々の健康にも意識を向けた働きかけを行うことのできる子を育成することができる。 | 郡学校保健会が「郡三師会と学校が連携にした5つの力」を育てる健康づくりの充実を図る「マネジメント」や「支援」を行えば、ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒が育つ |
| 研究内容 | | |
| 保健主事のマネジメントやコーディネート ● 児童生徒や学校の実態、課題の把握 ● 授業案や指導内容の提案 ● 講師との連絡調整 ● 資料等の準備、授業者への情報提供 ● 実践の振り返りと評価 ● 家庭や地域への情報発信 ● 事後の見届けと、担任や養護教諭と連携した指導、支援の継続 | ● 学んだことを活用した主体的な健康づくりを目指した集団指導 ● 自分自身の健康問題に気付き、主体的な解決を目指した個別の保健指導 ● 身近な人々に発信し、健康の保持増進への寄与を目指した児童生徒の組織活動 | ● 郡の学校保健の取組の目的・重点・方途を明確化するための郡学校保健の全体構想の作成とそれを推進するための広報活動 ● 郡三師会と学校が連携して児童生徒の安全を守るための「郡三師会と養護教諭との交流会」 ● 揖斐郡内の学校保健関係者の学校保健に関する指導の専門性を高めるための揖斐郡学校保健研修総会での講演 ● 各校で実施されている三師会と学校が連携した実践のデータベース化と優れた実践の紹介 |
| 具体的実践 | | |
| ■ 新型コロナウイルス感染症を予防する対策をもとにして、様々な感染症を予防する正しい知識を身に付けるための学習場面を各校で企画し、実践する。 ■ 正しい情報の入手や理解の促進のために、授業や指導過程に三師の指導を組み込む。 ■ 意識調査・実態調査・行動観察・抽出児の変容等から、学習の評価を行う。 ■ 正しい手洗いについて、教師から児童生徒への継続的な指導や啓発をすることをとおして、「自らの命や健康を、進んで守ろうとする意識を高める」心や態度の育成を図る。 ■ 正しい手洗いと感染症の防止について、児童生徒から全校児童、生徒へ、児童、生徒から家庭や地域への情報発信をする。 ■ 各学校において、「自らの命や健康を、進んで守ろうとする意識を高める」ための新しい指導を企画して実践を行う。 | ■ 主体的な健康づくりを目指した集団指導 発達段階ごとにねらいを明確にした町統一の指導用資料の作成と実践 指導が必要な内容を焦点化するアンケートの実施と指導の成果の見届け ■ 主体的な健康づくりを目指した個別の保健指導 実態の把握と個別対象者を抽出するためのアンケートの工夫 健康課題を抱える児童生徒を個別対象者とした指導計画の立案と三師会等の評価を取り入れた指導方法の工夫 ■ 他者の働きかけを目指した児童生徒の組織活動 ICTを活用した学校薬剤師を招いての学習発表会の実施や学校保健安全委員会への児童生徒の参加 自己有用感を実感する児童保健委員会の活動の自己・他者評価 | ■ 「揖斐郡学校保健会全体構想」を作成し、郡としての研究主題、求める児童生徒の姿、学校保健に関わる各部会の役割、学校と三師会の連携の仕方が郡内で共通理解できるようにする。 ■ 養護教諭が健康教育や専門的な知識を身につける医療関係者を招いての講演や日常での指導や実践で生まれる不安や質問に郡三師会がそれぞれの専門的な立場から回答する交流会を実施する。 ■ 広く学校保健関係者が学校保健活動への理解や専門的知識を深め、連携して学校保健活動に取り組む態勢を築くニーズの高いテーマを取り上げた系統的・継続的な講演を実施する。 ■ 各校で行われている「三師会と学校が連携した学校保健活動の調査を行い、実践の目的・内容価値を明確にしたデータベースを作成し、他校の取組に学び、自校の取組を高める郡が一体となった指導体制を構築する。 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 郡三師会と学校の連携による健康づくりを推進するための広報・PR活動 | ・ 揖斐郡学校保健会ホームページでの郡学校保健会の取組や各校の優れた実践の紹介 ・ 揖斐郡学校保健会だよりの定期的な発行と郡三師会・各学校への配付 |
|-----------------------------------|--|